

# 素 顔 拝 見

口腔解剖学分野・准教授  
大 峡 淳

11月1日より口腔解剖の准教授として赴任致しました大峡（おおはざま）と申します。大峡という姓は、インターネットで調べると、全国に800人ほどしかおらず（そのうち10人がうちの家族になります）、数のランキングでも全国で10070位と、かなりレアな名字です。ただ、同じ漢字でも「おおば」や「おおばさみ」と読む方もおられるようです。めずらしい名字は何事もスムーズにいかず、メジャーな名前に憧れます。結婚の際に、名字ランキング5位の嫁の名字に変えようかと真剣に悩んだくらいです。研究者となってから、すぐ覚えてもらえるので、悪くないかなと感じられるようになりました。大峡姓の多くの方が山形県と長野県に住んでいるのだそうで、そんな私も山形県米沢市の出身です。「スウィングガールズ」という映画の舞台になった所です。映画は、山形弁バリバリの女子高生がジャズバンドを結成するストーリーですが、映画での訛りは大分軽くしてあり、実際は、もっとキツイものです。他県の友達曰く、外国に来た気分になるとの事でした。

私は、日本大学歯学部出身です。大学卒業後、昭和大学の歯周病学教室の大学院に入学し、大学院卒業後もそのまま歯周病科に助教として勤務させていただきました。臨床が好きで大学院のテーマも臨床的なものであったため、大学院時代から研究よりも臨床指向でした。歯周病の専門医も取得し、開業という言葉が頭をちらつき始めた頃に、昭和大学の留学制度に応募する事にしました。臨床の場で歯周組織の再生を少しでも得られるための

工夫に役立てばという理由で、発生学を学ぼうと考えての応募でした。ただ、一度海外に住んでみたいという事も、応募動機の一部にあったかもしれませんが。。。。当時、アメリカに留学していた友人から、患者と関係のない基礎のラボなら、好きな時に休めると聞いた事が、経験のなかった発生学研究を選択した事にほんのちょっとだけ影響したかもしれません。。。。

畑違いの人間を採用してくれるのだろうかとの不安もありましたが、希望していた、イギリス King's College London の Paul Sharpe ラボ (Department of craniofacial development) に行く事になりました。出発前にイギリス英語を教えるという英会話教室にも通い、準備したつもりでいましたが、ラボへの出勤初日は、「ハロー」以外何も聞き取れず、ポロポロになって帰宅しました。話さなきゃうまくならないと思うものの、何を話したらいいかわからない。これではマズいと、みんなと会話をするために、話題によくのぼるサッカー番組を見るようにしました。当初、まったく興味のなかったサッカーでしたが、試合を見ているうちに、すっかり魅了されてしまい、気が付いたら現地の人以上のサッカー狂になっていました。昼間に試合の放映があるワールドカップの際には、仕事の合間にサッ



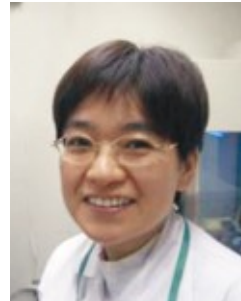
カー観戦（サッカー観戦の合間に仕事？）をしたりましたが、そんな事が容認されるイギリス社会でした。家にテレビは一つしかありませんから、私がサッカーを見ている間、横で退屈そうにしていた女房も、気がつけばサッカーファンに。チェルシーというチームのファンである私に対し、女房はリバプールというチームのファンです。イギリスでは父子は同じチームを応援しますが、息子は女房にとられリバプールファンになってしまい（涙）、チェルシー対リバプールの試合の日の我が家は、悲劇です。イギリスを離れて悲しいのは、時差のせいでサッカーの試合の放映が夜中になる事です。もし、私がウトウトしてしまいたら、きっと夜中にサッカーの試合を見ていたのだかと、そっと見守ってください。サッカーと同様に、基礎研究にも徐々に魅了されていきました。臨床と基礎研究どちらも好きでしたが、今後の人生をどう過ごすか考えた末、基礎研究一本に集中する事にしました。結局、一時帰国を挟んで合計12年の在英生活となりました。当初は、どうすれば、こんなにマズく作れるのだと思っていたイギリス料理も、12年も経つと“味気ないのが味”と思えるようになっていました。仕事のほうも幸運な事に、後半の6年はPIとして自分のラボを持つことができました。ポストドクとはまったく次元の違う仕事の内容に、悪戦苦闘の日々でしたが、とてもいい経験でした。もっとも、周りのサポートがなかったら、とてもこなせておらず、支えてくれた人達には感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に仕事の事を少々。歯周組織の再生を目的にと始めた発生学の研究ですが、現在では、歯、舌、口蓋、口唇、顎関節の発生分子メカニズムの解明をめざした、研究を行なっています。決まった場所に決まった器官が、決まった形や数で形成されるその過程には、神秘を感じます。それらの発生過程は進化の過程で獲得したものであり、発生研究は進化の謎にも迫れます。また発生の分子メカニズムは、再生医療における幹細胞の分化誘導にも必須です。そんな研究に興味がおありの方は、ぜひご連絡ください。

私は新潟大学歯学部が開校した年に生まれましたので、新潟大に勝手に縁を感じております。微

力ではありますが、少しでも新潟大の発展に貢献できるよう、精一杯努力していく所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

＊



口腔再建外科・講師

芳澤享子

7月1日付で口腔再建外科講師を拝命しました芳澤です。よろしくお願ひいたします。自由な内容をなんでも好きなように書いてよいということですので、まずは自己紹介ということで名前について書こうと思います。私の first name は「みちこ」と読みますが、子供の頃から漢字を正確に読んでいただけたことがありません。たいていは「きょうこ」でしょうか。これまでもいろいろ困る状況はありましたが、最も困るのが電話で自分の名前を伝えなければいけない時です。『お名前を漢字で教えてください』と電話の相手の方はいとも簡単におっしゃるのですが、そのたびに私はこれから漢字の説明をしないといけないのかと大変憂鬱になります。

**電話の人**（なぜか明るく）『それでは苗字からお願いしまーす』

**私**（わかってくれるかなあ？ と思いつつ）『よしざわの「よし」は芳しいの「よし』』

**電話の人**『はあ？』

**私**（だから言ったのに）『えっと、芳香族とか芳香剤の「ほう』』

**電話の人**『はああ？』

**私**（だめだ、最後の手段）『えーっと「くさかんむりに「方向」の「ほう』』

**電話の人**『ああああ、はい、わかりました。では「さわ」は？』

**私**『さんずいに難しい方の「さわ』』

**電話の人**『えーっと……わかりました。それでは名前の方をお願いしまーす。』

**私**（大丈夫かなあ？ と恐る恐る）『「みち」は「享

保の改革」の「きょう」]

電話の人『はあぁあ？』

私(たしかに今のは無理があったかも)『ですから、「享年何歳」とか、「享楽」の「きょう」]

電話の人『……』

私(やっぱりだめか……)『えーっとですね、なべぶたに口かいてその下に子供の子』

電話の人『あー！ 京都の「きょう」ですね！』

私(だから違ってるば)『いいえ、京都の京は下が小さいですが、私の字は子供の子』(私の説明もまったく意味不明……)

こんなやりとりが繰り返されます。近年読めない名前の人が多くなり他人事ながら心配していましたが、最近では電話で名前を説明する機会もめっきり減り、インターネットで入力すれば事足りることが増えたので、よい世の中になったものです(と、名前でここまで引き延ばしてしまいました)。

それでは次の素顔ということで、趣味についてです。当科の齊藤 力前教授より「人はそれぞれに仕事の比重というものがあるが、芳澤は100%だ」と言われ、少なからずショックを受けたことがありましたが、そんな私でも一応の趣味はあります。SAKEとかKARAOKEでしょう、と思われる方もいらっしゃると思いますが、残念ながら今回は【街道をゆく】についてです。もともと歴史好きで、司馬遼太郎の歴史小説は大ファンだったのですが、司馬遼太郎の【街道をゆく】は全く読んだことがありませんでした。というか、歴史は好きだったのですが、現地まで行くのが面倒くさい、外出すらも面倒でイヤといういわゆる出不精で、当科に所属してからも学会出張でさえ、かなりのストレスを感じていた私でしたが、それまでなじみの薄かった関西、中国、四国、九州、あるいは東北、北海道、さらには外国など、自分が知っていた文化とは異なったものに触れられる地域に行くことが多くなるにつれ、それぞれの地域の歴史を感じつつ、その文化に触れ、その土地の飲食物を味わう(結局これです)ということに徐々に楽しみを覚えるようになっていきました。そしてある時、ふと手にした司馬遼太郎の【街道をゆく】。強烈な感動を覚えました。それ以来、私

もいずれこんな旅ができればなあとのかな夢を抱いています。といいつつ、もともと超方向音痴な私は、新潟大学入学以来ずっと在住している新潟市内でいとも簡単に迷子になり、そのまま【街道をゆく】状態になったりもします。そういうときは新潟に旅に来たのだと思い込み、新潟駅前の居酒屋で旅人のつもりで飲食をすることにしています。

もう少し趣味のことを。趣味は？ と聞かれると昔はスポーツ！ と迷いなく言っていましたが、最近では特になにかするということもなく、ただひたすら歩くのが唯一の運動という情けない現状です。信濃川を見ながら歩くのも悪くはないのですが、ここ数年は実家のある長野県飯綱町(合併前は牟礼村)に帰省すると、今まで以上に長野の山々が魅力的に映るようになり、それらに囲まれて歩くのが楽しみです。特に北信五岳(妙高、斑尾、黒姫、戸隠、飯綱)は昔からあったはずなのに、年のせいか今の自分の目にはまったく違うものに見えるのが不思議です。実家のまわりを歩くだけで、越後平野がひらける新潟とは違い、山あり谷ありのハイキングになり、そのまま走ったらトレイルラン？ そういえば冬はスキーなんてやったっけ、なんて思い出したりします。もともとは山で育った猿、いえ一応人間、なので、子供の頃は意識することなくそれが日常だったはずなのですが、長期の新潟の平地生活ですっかり【山】という存在を忘れてしまっていました。ですが、最近私の中のなにかが「そろそろ思い出したらどうだ」と言っているようで、【山】を見るとなにやら心が騒ぎます。そんなわけで、【山】にまつわるなにかを始めようかなと思いつつも、先立つものは「持久力」と「筋力」ということで、ひさびさに筋トレを始めてみました。これから何日続くかわかりませんが、もしかしたら1年後に筋トレが趣味と言っているかもしれません。

ということで、仕事以外のことに終始した自己紹介でしたが、一応仕事比重100%を目指していますので、今後とも宜しく願いいたします。

＊



顎顔面放射線学分野・助教  
新 國 農

2013年6月より顎顔面放射線学分野の助教に就任しました新國農（にっくに ゆたか）と申します。まとまりのない文章になるかと思いますが、それも含めて「素顔紹介」になればと思います。（出自）出身は埼玉県桶川市ですが、本籍地は福島県になります（父方の実家です）。福島には新國という姓の方はそれなりにいらっしゃるようですが、読みもいろいろなようです（にっくに、にいくに、しんくに等）。最近大学近くに引っ越したのですが、向いにお住まいの方が福島出身で自分の姓を正確に読んでくれました。初対面では何年振りでしょう。私の場合さらに名前も読みにくく、農で「ゆたか」です。昔は「みのり」と読まれたり、漢字の方を「豊」と書かれたりして散々でした。今でも健康診断の用紙などには「豊」の文字で届くことがあります。まあそれほど気にしてはおらず、そもそも戸籍上は「新國」なのですが、今まで「新国」と苗字を書いていた。

（入局）大学卒業前、林教授のいらっしゃる教授室に飛び込み、いきなり入局希望を伝えました。どうも自分にはこのような「相手の事をあまり考えないで勝手に行動する」癖があるようで教授も驚かされていたようでしたが、海のものとも山のものともつかぬ人間を受け入れて下さいました。以来9年、足手まといどころか折に触れ足を引っ張るような真似をしていたと反省する日々でしたが、この度の当科助教の募集に応募したところ、無事採用され、やっとご恩返しができるようになったと胸をなでおろしているところです。

（臨床）私は画像診断が臨床業務のほとんど全てなのですが、診断を主な業務とすると一般的な臨床医とはかなり違う生活になってしまいます。そもそも診断というのは（歯科を含む）医師にとって日常欠かすことのできない要素であり、正確な診断こそが正しい治療を導きます。すると、診断

は歯科医師にとって必須の技術であり、あえてこれを専門に行う診断医はより高い診断能力が求められるはずです。経験不足だった頃はこの辺りが常に悩みの種で、さらには直接的に患者様から感謝されることもなく、一体自分の仕事は世の中の役に立っているのかと悩む事もありました。ただ、結果としてこの仕事が自分には合っていたようです。最近では口腔外科の先生にも「だいたいこの程度の実力」と認知され、放射線学的な問題（どの機器で最初に画像情報を得るか？ など）について、診断についてそれなりにご相談を受ける事も多く、画像診断医としてのやりがいを感じているところです。歯科医療も複雑高度になるにつれ、自分のような画像診断だけを主な業務とする人間もこれから次第に多く必要になるのかも知れないな、とここでも胸をなでおろしているところです。（転職）このような存在感のない存在として数年医局で過ごしていた私にも転職が訪れました。2012年6月から12月までの短い期間でしたが香港大学 Oral diagnosis & Polyclinics の Goto. TK 先生のご指導の元、honorary research associate の役職として働かせていただいたのです（この時もほとんど飛び込みで行ったようなものです）。それまで臨床業務しか興味なく（というよりそれだけで精一杯）、次いで教育、研究？ よく分かりませんという状態だった自分に対して、Goto 先生は研究活動のなんたるかを実地で教えて下さいました。この機会を与えて下さった林教授、Goto 先生、先に道を作って下さった当科田中先生には感謝してもしきれません。

（研究）現在私が行っている研究の対象はモダリティ（機器）ベースに言えばMRIがメイン、主な対象としては顎関節症の咬筋の状態について、ということになります。

具体的にはMRI撮像方法の一つ、T2mapという方法で咬筋内部の水分量の変化を画像的に捉えようとしています。2008年から当科西山准教授のご提案でT2mapを顎関節MRIのルーチンのシークエンスに加えているのですが、この度ようやくその成果の一部を学位論文にまとめました。辛抱強くご指導いただきました西山准教授、

林教授には感謝してもきれません。MRIについて余談ですが、MRIは様々な撮像方法があり、一般的に考えられている軟組織に対する最先端の画像診断装置というだけでなく、硬組織についてもその構造を知る大きな力となります。世間では(と言ってMRI業界というか、歯科放射線業界というかそういう世間ですが) dental MRIなどという用語もここ数年流行しているようです。コスト的な面でMRIを一たとえば根管治療などに用いるのはまだまだ先の事だと思うのですが、歯科領域といってもMRIの応用はまだまだ果てしないものがあると思います。

(現状) ここまで籍を置いてきて、歯科放射線科というのは実に融通無碍な科だと思うようになりました。画像診断は主な臨床業務なのですが、放射線治療前後の口腔管理も当科では重要な臨床業務です。他大学では放射線治療に直接携わる科もあります。私の感覚としても、自分のやりたい臨床、教育、研究をしたいだけ行ってきた、という気分です。このような時間の過ごし方だったので、確かにエネルギーは費やしたのですが、どうもあまり苦勞した感覚はないようです。苦勞した感覚が抜け落ちてしまう感じでしょうか。培った知識も抜けてしまわぬよう、努力したいと思います。

(展望) 今後は臨床・教育・研究という歯学部教員の一人としての仕事のバランスを考え、大学人として日常業務に邁進していこうと思います。しかしながら気分と能力は別のようで、せっかくの新年の9連休も場所を変えてずっと寝て過ごしていたようなものでした。2014年はもう少し頑張ろうと思います。新しい仕事が増え、なかなか計画通りに事が進んで行かず、多方面にご迷惑をおかけする毎日です。このような次第で、いつまで大学にいられるか分かりませんが、どうか今後とも叱咤激励の程よろしくをお願いします。

＊



口腔生命福祉学専攻福祉学  
分野・助教

米澤大輔

平成25年4月より、口腔生命福祉学専攻福祉学分野でお世話になっております、米澤大輔です。「素顔拝見」の依頼をお受けいたしましたので、自己紹介をさせていただきたいと思います。

私は、長野県駒ヶ根市で生まれ育ちました。長野県と言っても非常に広いので、長野県の人でも、「どこ？」という方が多いかと思われそうですが、長野県の南側に位置し、交通の便が非常によく、車で名古屋までは1時間、東京までも3時間弱で行ってしまう様な好立地(買い物をしたくなったら、東京に行くのが当たり前という、今思えばなんとも生意気な中高時代を過ごしました)。さらには、中央アルプス・南アルプスを一望出来、標高2,956mの駒ヶ岳に架けられた駒ヶ岳ロープウェイからは、「千畳敷カール」と呼ばれる絶景を楽しむことが出来ます。また、「住みやすい街」というランキングで、全国第一位になったことがあるとても素晴らしい所です。もし、避暑や紅葉の時期に旅行をお考えの際には、ぜひご検討いただければと思います。などと、つつい地元のよい所となると熱くなってしまい、話がそれてしまいました。申し訳ありません。

自己紹介に戻りますが、私は平成16年に新潟大学歯学部口腔生命福祉学科の1期生として入学しました。学生生活は、1期生27名(卒業時、編入生含む)の内、男性2名という希少生物のような存在で過ごしていました。ただ、先日同窓会を行い、そこでも話題になりましたが、同級生は、私をあまり異性として意識していないような所があるので、同窓会も何故だか「女子会」という名前で行われていました。詳しくは、同窓会誌の方に書かせていただきましたので、ここでは割愛させていただきますが、一緒にいてとても楽しい時間を過ごせる仲間にも恵まれました。そのような環境であったため、なんとか4年間楽しく過ごすこと

が出来たのだと思います。しかし、同級生にも恵まれていましたが、私が最も恵まれていたのは、歯学部サッカー部に入部出来たことだと思います。大学4年間は、本当に楽しい時間だったと強く思えるのは、サッカー部での経験がほとんどを占めていると思います。サッカー部での思い出を語りだすと、字数制限を軽く超えてしまいますので、本当に簡単に話させていただきます。

私はもともとサッカーが好きで、小中とサッカーをしていました。高校時代も、部活にこそ入らなかったものの、小学校のサッカーサークルでコーチの補助をするなど、サッカーはずっと続けていましたので、大学でももちろんサッカー部に入ろうと思っていました。しかし、入学後すぐの新入生合宿で、サッカー部の先輩からの勧誘の際に、入部希望と希望ポジションを伝えた所、ガッツポーズをされ喜ばれた時には、「この部活大丈夫なのだろうか？」と心配になりました。後から分かったのですが、喜んでもらった理由は、私の希望ポジションが少し特殊だったためでした。私は、小学校の頃から「GK(ゴールキーパー)」しかやったことがないので。なので、実は、履歴書に興味サッカーなどと書いていますが、ボールを蹴ったり走ったりするのは、実は初心者の方と比べると変わりはありません。お恥ずかしながら、本当に下手くそです。そんな私が(人並みよりちょっとは上手な)GKとして入部し、喜んで受け入れていただいたのは、私としても本当に嬉しかったです。また、部員に非常に恵まれました。同期で入った友人も、先輩・後輩、OBの先生方まで、本当に素晴らしい人ばかりで、皆さんによくしていただきました。卒業後も、サッカー部の繋がりは非常に強く、様々な場面でよくしていただいております。諸先輩方からいただいた多くの感謝の気持ちを今後は、後輩に還元していかなければと感じています。しかしながら、まだまだ先輩方にかわいがってもらう方も、お待ちしておりますので、飲み会等ございましたら、いつでも声をかけていただければ、馳せ参じる所存でございます。

クラスでも、部活でも、本当に多くの素晴らしい方との出会いに恵まれて楽しい4年間を過ごし、無事に卒業することができました。その後は、

大学院に進学させていただき、博士課程前期2年間、博士課程後期3年間を経て、大学院も無事修了することが出来ました。大学院に関しては、歯学部ニュース平成24年度第2号(122号)「大学院修了にあたって」で詳しく書かせていただきましたので、そちらを読んでいただければと思いますが、改めて、大学院でも、多くの尊敬する先生方のおかげで濃密で貴重な時間や経験をさせていただくことが出来、本当に心から感謝しています。

何を書こうかと悩みながら、とりあえず書き始めてみようと思い書いていたため、乱文乱筆申し訳ございません。しかし、書き進めながら改めて自分が新潟に来てからの10年間を思い出してみたところ、人との出会いに恵まれていたのだなと感じることが出来ました。実は、先日たまたま「男性歯科衛生士」という希少生物の話を知りたいと、他大学の学生さんがわざわざ九州から来られました。その際、「大学時代、女性ばかりで苦労したことはなんですか？」と質問され、周りの人から見たら、当たり前のように大変なのだろうなと思われるのだと感じました。確かに、男性看護師に関する論文を読むと、大変だという趣旨の論文が多く見受けられます。しかし、私はその学生さんに、「私の学生時代は、本当に多くの素晴らしい人達に恵まれていたため、とても楽しい4年間を過ごしましたよ」と伝えました。今は、希少生物ですが、少しずつでも、私の経験を学生の皆さんに伝えられたらと思います。まだまだ未熟者で、足りない所が多々あり、ご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、日々成長しながら努力していきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。

\*



口腔生命福祉学専攻・助教  
諏訪 加奈

平成25年5月より口腔生命福祉学科専攻口腔保

健学分野助教に採用頂きました諏訪間（すわま）加奈です。今回このような機会をいただきましたので、恐縮ですが少し自己紹介をさせていただきますと思います。少しお付き合いください。

私は口腔生命福祉学科に一期生として入学し、卒業しました。旧姓市川です。余談ですが……、旧姓はとても簡単な漢字だけなので、難しい名字に憧れていましたが、なかなか珍しい名字になりました。(最近は、難しい名字も大変と実感中です……) 聞きなれない名字のため出身地はどこか聞かれることも多くなりましたが、新潟県加茂市の出身です。父の仕事の都合で、海の柏崎市や山の松代町にも住んでいましたが、大学までの大半は加茂市で育ちました。新潟市内から車で1時間くらい、「北越の小京都」、「日本一の桐ダンスのまち」と言われている所です。加茂山公園・加茂川など自然が豊かで、普段でも散歩などすると癒し効果が抜群ですが、なかでもお勤めは「AKARIBA」という加茂山での灯りのイベントです。夜の加茂山や青海神社にたくさんの灯りがともされる、なんとも素敵な雰囲気です。また、萬寿鏡などおいしいお酒をつくる酒蔵も温泉もあるので、ぜひ季節が良くなりましたら加茂にお越しいただけたら嬉しいです。春には、加茂川に大量の鯉のぼりも泳ぎます。加茂山公園のリス園も再開します。ご紹介したいものはまだまだありますが、地元の宣伝はまたの機会に。

小さいころから自然豊かな所で育っているので、海水浴にスキーにとわりとアクティブに育ち、何か新しいことに挑戦するのが好きで、大学時代も卓球部と茶道部という新たな部活にチャレンジしました。どちらの部活もとても楽しく、卓球部ではデンタルへも参加させて頂き、県外へ大会に行ったことや、夏の浜コンでは夜遅くまでバーベキューや花火をしたことはとてもいい思い出です。茶道部では市民茶会や学生茶会など普段なかなか経験できないことをさせて頂きました。これらの経験もそうですが、人との出会いもかけがえのないものでした。新設の学科所属でしたが、OBの先生方、先輩方や後輩も変わらず良くしてくださり、本当にありがたく思っております。また、県外出身の方たちは「県人会」という集まりがあ

ると思いますが、新潟県内だと高校単位で集まっているところがあります。私の母校の新潟県立三条高校も「三高会」という集まりが開催され、年に何回か懇親を深めています。こちらの方も毎回、温かい雰囲気楽しい時間を過ごさせて頂いています。卒業後、大学を離れた時も声をかけてくださる先生方や開催してくれる幹事さんには感謝です。そして、口腔生命福祉学科1期生の仲間たちとの出会いもかけがえのないものでした。先生方にも言われますが、それぞれ個性豊かな仲間たちです。(新設の学科にチャレンジするくらいだから確かにそうだと思うのですが) でもそれぞれが個性的なので、非常に面白く刺激的です。このメンバーだからこそ4年間の学生生活を乗り越えられたと思いますし、卒業後は特に皆に支えられることも多く、出会えたことに感謝しています。思い返しても、一番楽しい学生時代でした。

卒業後は、新潟大学医歯学総合病院予防歯科診療室で1年間歯科衛生士としてお世話になりました。また、同時に主に夜間や休日、博士前期課程で社会人大学院生として学ばせて頂きました。その後、平成21年に新潟市歯科医師会が指定管理する新潟市口腔保健福祉センターが開設されることになり、歯科衛生士として4年間お世話になりました。このセンターでは、障害や高齢のため一般の歯科診療所では治療の困難な方の歯科診療や歯科保健事業、年末年始やお盆など歯科医院が休診のときに応急処置を受けることができる休日急患診療が行われています。それまで障害を持つ方の歯科診療を経験することはなかなかありませんでしたので、最初は緊張の連続でした。障害のため意思疎通や理解が得られにくく、ユニットに座ることや建物に入ってくることも難しい方。体動の強い方、精一杯の力で噛んで開口が難しい方など様々な患者様がいらっしゃいましたが、それぞれに対し安全に、できるだけ苦痛が少ないように配慮され診療が行われていました。そのような歯科診療や患者様の特性や能力を生かした歯科保健指導には、多くの工夫や根気強い努力がたくさんありました。また、診療がうまくいくためには患者様はもちろんですが、家族や施設の職員の方などの協力も不可欠です。様々な事情を抱えながらも、

一生懸命に患者様を支える家族や施設の方にはただただすごいと頭が下がるばかりです。患者様・家族・職員の方との接し方・コミュニケーションの取り方では難しく悩むこともありました。多くの勉強をさせていただきました。また、非常に熱心に患者様と向き合い、診療に取り組まれている歯科医師や歯科衛生士の方々の姿をみることができたことも含め貴重な経験をたくさんさせていただきました。

まだまだ経験も勉強も足りず、これから自分自身もっと努力していかなくてはなりませんが、教育に携わらせて頂く中で少しでもお役にたてればと思います。また、私達一期生は先に進む先輩おらず、先輩がいたら良かったなと思う場面が多々ありました。同じ学科の卒業生としても何か力になればと思いますので、今後ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

